

各位

平成18年10月25日
東京都港区元赤坂一丁目5番8号
株式会社 WOWOW
代表取締役社長 廣瀬 敏雄
(コード番号: 4839)
問合せ先 IR広報局長 高見澤尚樹
TEL 03(5414)8090

業績予想の修正および特別損失の計上について

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年5月24日に公表しました平成19年3月期中間期および通期の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成19年3月期中間業績予想の修正（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

(1) 単 体

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値(A)	31,400	1,470	1,700	1,660
今回修正数値(B)	30,800	1,500	1,900	1,120
増減額(B-A)	△600	30	200	△540
増減率(%)	△1.9%	2.0%	11.8%	△32.5%
(ご参考)前年中間期実績 (平成18年3月期)	30,725	1,697	1,748	736

(2) 連 結

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値(A)	33,600	1,600	1,820	1,670
今回修正数値(B)	33,300	2,000	2,500	1,400
増減額(B-A)	△300	400	680	△270
増減率(%)	△0.9%	25.0%	37.4%	△16.2%
(ご参考)前年中間期実績 (平成18年3月期)	32,002	1,714	873	535

2. 平成19年3月期通期業績予想の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(1) 単 体

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値(A)	62,800	2,250	2,670	2,610
今回修正数値(B)	61,800	2,000	2,700	1,470
増 減 額(B-A)	△ 1,000	△ 250	30	△ 1,140
増 減 率(%)	△ 1.6%	△ 11.1%	1.1%	△ 43.7%
(ご参考) 前期実績 (平成18年3月期)	61,366	2,243	2,668	1,440

(2) 連 結

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表数値(A)	67,700	2,900	3,450	3,010
今回修正数値(B)	66,800	2,900	3,800	2,000
増 減 額(B-A)	△ 900	—	350	△ 1,010
増 減 率(%)	△ 1.3%	—	10.1%	△ 33.6%
(ご参考) 前期実績 (平成18年3月期)	64,113	2,518	2,346	1,815

3. 修正の理由

(1) 中間期

単体業績につきましては、第2四半期から月次の正味加入者数が増加に転じ9月末の累計正味加入者数はほぼ当初予想通りとなりましたが、第1四半期での加入者数の計画未達による視聴料収入の減少を取り戻すまでに至らなかったこと、付帯事業収入が見通しを下回ったことにより、営業収益が前回予想より減少する見込みです。一方、営業利益につきましては、加入連動コストの減少およびその他経費の圧縮によりほぼ前回予想の通りとなりましたが、営業外損益におきまして為替差益が当初見通しを上回ったため、経常利益は前回予想を上回る見込みです。当期純利益につきましては、下記特別損失の計上を見込み、上記1.表(1)の通り修正いたします。

連結業績につきましては、単体と同様の理由に加え、連結子会社でテレマーケティング事業を行っております株式会社WOWOWコミュニケーションズの請負業務の受注増や利益増により、前回予想を上回る見込みとなり、上記1.表(2)の通り修正いたします。

(2) 通期

単体業績につきましては、中間期の理由に加え、下期の付帯事業収入が当初予想を下回る見通しであることにより、営業収益が前回予想より減少する見込みです。営業利益につきましては、前述の営業収益の減少による利益減に加え、正味加入者数の純増継続を目論み、広告宣伝およびカスタマーセンターでの加入受付関連の運営費の増加等を見込むため当初予想を下回りますが、営業外損

益におきまして為替差益が当初予想を上回るため、経常利益はほぼ当初予想の通りとなる見込みです。当期純利益につきましては、下記特別損失の計上を見込み、上記2. 表(1)の通り修正いたします。

連結業績につきましては、単体と同様の理由により上記2. 表(2)の通り修正いたします。

4. 特別損失の計上

(1) 中間期

当社の基幹システムである顧客管理システムの再構築に向け、当該システムのソフトウェア開発を外部へ委託しておりましたが、外部委託先の成果物（ソフトウェア）の納期遅延、未完成等の債務不履行により、当該契約を解除することを決定いたしました。これに伴い、外部委託先に対する支払済みのソフトウェア開発に関わる諸費用等 735 百万円を貸倒引当し、特別損失を計上いたします。

(2) 通期

中間期の要因に加え、東経 110 度CSデジタル事業の撤退（詳細については、本日発表の「東経 110 度CSデジタル事業の撤退および子会社の解散について」をご参照ください）に伴う損失 438 百万円を想定しており、これを特別損失に計上する見込みです。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上